



市立名寄図書館・市立図書館風連分室

上川管内北部、道北の入口の位置する名寄。現在は札幌から稚内への特急は 1 日1往復となり、ほとんど旭川で快速などに乗り換えないとはいけません。特急だと2時間半ほどで行けて結構早いという印象があります。いつも旭川と名寄間は各駅ではどうしても長く乗車している気分になります。でも和寒や剣淵、比布など図書館に立ち寄るようになって感覚が変わってきました。名寄は以前オホーツク方面に向かう名寄本線、幌加内方面に向かう深名線のターミナル駅でした。

図書館は駅から徒歩 10 分ほど。今回は 2 回目の訪問です。「絵本」書架だけは本館入口と別になっています。この辺の作りは独特かもしれません。地域資料の蔵書数がとても多く、そして何より閉架書庫が広い。そして書架整頓がよくできています。閉架はなかなか見ることができませんが、特別に見学させてもらいました。全部で蔵書約 15 万冊とのことでした。

この図書館の建物ができたのは 1970 年。55 年経過しています。屋上にプラネタリウム館がありましたが、2009 年「なよろ市立天文台」に移転。現在ドームだけ屋上に残っています。

館内で利用者が立ち入るエリアに大きな問題はないのですが、天井や壁の破損、修理できないリフトの故障など状況は厳しいです。催しは 2 階で行うのですが、階段しかないのが高齢者などが上がって行けない。この問題は道内各地で見かけます。移転含めた改修計画はあるのですが、名寄市としては病院や学校などまず優先で行われているようです。これも各地でよく聞きます。高齢者、障がいのある方のためにも早く着手して欲しいです。

市内の循環バスも図書館前には停留所はなく、隣の市役所に停まってしまうのです。真冬豪雪地帯なので、あのわずかな距離でも図書館前に停留所があったら便利だよなと思います。運動のために歩いた方が良いのかな？

移転先の面積が縮小する場合も想定され、除籍しないといけないかもしれません。だとしたら今から少しずつ除籍だけは普段よりスピードアップした方が良いかもしれません。きっとこのような課題も全国各地で抱えているのでしょうね。

さて、名寄市は現在人口 24,000 人ほど。2006 年に名寄市の南に隣接する風連町と合併しました。風連は名寄から旭川方面に2駅。バスも運行しているのでアクセスは良いです。

今回、風連分室をどうしても訪問したかったのです。北海道 212 市町村時代を調査しているためです。合併から約 20 年、町や図書館施設はどのように変わったのか知りたいからです。隣の士別市も朝日町と合併しており、こちらにも訪問したのですが、士別については別の機会に

書きます。

さて風連分室ですが風連駅から徒歩 10 分。風連中央小学校内にあります。名寄図書館風連町分室という名称です。生徒と一般利用者の入口は別。入館すると学校図書館と公共図書館の書架が分かれており、学校図書館の図書は生徒と学校関係者以外借りることができません。公共図書館側にも児童書は蔵書しており、こちらは一般でも生徒たちも皆借りることができます。そしてカウンターも別になっており、データベースも別管理。2019 年新校舎に図書室を設置、今日に至ります。

天井も高く、適度に外からの光も入り、もちろんバリアフリーになっています。書架整頓は本館同様丁寧に管理しています。そして地域資料がこちらも多いのが特徴。現在生徒数は全校で 95 人ほど。お昼休みと下校時に生徒たちが立ち寄るようです。私が訪問した時は授業中だったので生徒たちの賑わいを見ることはできませんでした。

名寄は市立大学の図書館も充実しているので、何とか名寄図書館本館の改修を進めて欲しいです。

今回名寄に行って唯一の後悔は、ふるさと納税の返礼品にもなっている「名寄ぷりん」を、名寄駅から近いにも関わらずゲットし忘れたこと。今年 2 月末閉店なので残念です。

2025 年 2 月訪問
加藤 重男